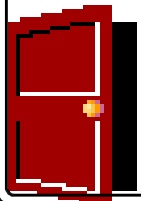


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年9月12日 文責 渡邊

「読書の習慣化」の難しさとその対策について！

保護者の皆様方には、夏休み前に実施した「学校評価アンケート」へのご協力をありがとうございました。

その中で読書に係る内容のアンケート（「お子さんは、よく本を読んでいる」）がありました。このことに関して集計したところ、A「できる」が26ポイント、B「ややできる」が35ポイント、C「少しできない」が32ポイント、D「できない」が6ポイントという結果でした。これは、昨年度末（12月）に調査した結果と比較したとき、AとBの合計でマイナス7.3ポイントとなりました。今年度は、読書活動の推進を保護者の皆様方の協力を得ながら推進してきましたが、なかなかその定着の困難さを痛感しているところです。

具体的に学年ごとに分析してみると第1学年（A－5人、B－5人、C－5人、D－1人）、第2学年（A－4人、B－2人、C－5人）、第3学年（B－7人、C－3人）、第4学年（A－3人、B－4人、C－1人、D－2人）、第5学年（A－3人、B－3人、C－3人、D－2人）、第6学年（A－5人、B－6人、C－8人）という結果でした。学年間において大きな差は見られませんでした。どの学年においても、読書をしているお子さんとそうでないお子さんがいることが分かります。

次に、児童についての調査です。児童には、読書について達成目標でアンケート調査を実施しました。質問内容は「7月までの目標冊数を達成している。（低33冊、中23冊、高16冊）」です。これについて、A53.2ポイント、B30.4ポイント、C11.4ポイント、D2.5ポイントの結果でした。これについても昨年度の調査結果と比較したとき、昨年度のAとBの合計が85.4ポイントであり、本年度の前期の集計結果でマイナス1.9ポイントとなりました。具体的に分析していくと、第1学年（A－9人、B－7人）、第2学年（A－8人、B－3人）、第3学年（A－4人、B－5人、C－1人）、第4学年（A－8人、B－2人）、第5学年（A－8人、D－2人、無－1人）、第6学年（A－5人、B－7人、C－8人、無－1人）という結果で、高学年児童に達成の困難さが見られます。

最後に、教職員の調査についてです。質問項目「読書に親しんでいるか」という問いに対して、B－6人、C－3人という結果でした。読書活動に取り組むことができない理由として、「休み時間等でタブレット端末を使う児童が増え、本を借りる機会が減ったように思える」という意見がありました。本校の子供たちは、タブレット端末の扱いが上手で文字の入力も、休み時間等を活用し日々の練習の成果から、授業中も抵抗なく文字を入力することができます。これは素晴らしいことですが、今後は読書活動とのバランスが求められるものと考えます。

さて、このことに関して興味深い調査とその分析結果があるので紹介します。4月19日に、令和4年度全国学力・学習状況調査が第6学年児童を対象に実施されました。この調査では、国語、算数、理科の学力調査と学習状況調査が行われました。学習状況調査の質問項目に、「国語の勉強は好きですか」というものがあります。皆さんは、子供の頃、国語の学習が好きでしたか？本校の児童は、52.4%の子供たちが「好き」と回答しています。全国の児童のそれは、23.4%の児童が「好き」と回答した調査結果ですので、それを比較したとき、たいへん高いことが分かります。そして、学力調査において、国語は何と全国平均を7.4ポイントも上回っている結果が出ました。これは素晴らしいことです。そして、「楽しい」と感じる事が子供たちに大きな力を付けることにつながっていくのではないかと考えることができるように思われます。

読書についての調査項目もあります。「読書は好きですか」について、本校6年生は、「好

き」－57.1%、「どちらかといえば好き」－33.3%、「どちらかといえば嫌い」－4.8%、「嫌い」－4.8%。全国の6年生は、「好き」－41.9%、「どちらかといえば好き」－31.2%、「どちらかといえば嫌い」－16.7%、「嫌い」－10.0%という結果でした。これについても本校児童の好ましい調査結果が明らかになりました。

次に、読書の時間について比較してみましょう。質問項目は「**学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)**」について、本校児童は、「2時間以上」－4.8%、「1時間以上2時間より少ない」－9.5%、「30分以上1時間より少ない」－28.6%、「10分以上30分より少ない」－38.1%、「10分より少ない」－9.5%、「全く読まない」－9.5%の結果でした。一方、全国の児童のそれは、「2時間以上」－7.2%、「1時間以上2時間より少ない」－10.1%、「30分以上1時間より少ない」－19.1%、「10分以上30分より少ない」－23.2%、「10分より少ない」－14.1%、「全く読まない」－26.3%の結果でした。これについても本校児童は、少しの時間でも読書に取り組もうとする好ましい姿勢が伺えます。

では、下校後、多くの子供たちは家庭でどのように過ごしているのでしょうか？質問項目「**学校の授業時間以外に、普段、月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、勉強を読みますか(学習塾で勉強している時間等を含む)**」について、本校児童は、「3時間以上」－9.5%、「2時間以上3時間より少ない」－9.5%、「1時間以上2時間より少ない」－33.3%、「30分以上1時間より少ない」－23.8%、「30分より少ない」－9.5%、「全くしない」－14.3%の結果でした。一方、全国の児童は、「3時間以上」－11.3%、「2時間以上3時間より少ない」－13.8%、「1時間以上2時間より少ない」－34.3%、「30分以上1時間より少ない」－25.8%、「30分より少ない」－10.5%、「全くしない」－4.2%の結果でした。

最後に、ゲームに関する質問項目とその状況についてです。「**普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)を読みますか**」について、本校児童は、「4時間以上」－14.3%、「3時間以上4時間より少ない」－33.3%、「2時間以上3時間より少ない」－9.5%、「1時間以上2時間より少ない」－23.8%、「1時間より少ない」－14.3%、「全くしない」－4.8%の結果でした。全国の児童は、「4時間以上」－17.2%、「3時間以上4時間より少ない」－13.5%、「2時間以上3時間より少ない」－19.5%、「1時間以上2時間より少ない」－25.9%、「1時間より少ない」－16.4%、「全くしない」－7.5%の結果でした。家庭では、ゲームを楽しんでいる児童が多いことが伺えます。本校児童の傾向として、平日3時間以上もゲームをしている子が半数近くいるようです。全国でも30%の児童が楽しんでいます。ゲームを楽しむことは決して悪いことではありません。しかし、今後は、楽しむ時間を含めてそのやり方を見直す必要があるのではないのでしょうか？

家庭での読書の推進には、ゲームとの関係性が深いものと考えます。これまでの経験で、何かよいアイデアをお持ちの方は、是非お知らせください。よろしくお願ひします。

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」(9月12日号)を読んだ感想

()年()